

新型コロナウイルス感染症対応ガイドライン

鹿児島県サッカー協会

2種委員会

本ガイドラインの有効期間

新型コロナウイルス感染症への対策が要請されると判断する期間中にリーグ戦や大会を実施する場合に限る

(1) はじめに

この新型コロナウイルス感染症への対応は、選手やチームに推奨する手順をお示しするものです。

皆さまにはぜひ、個人防衛をお願いします。選手、チームスタッフ、保護者、試合運営に携わるすべての皆さま一人一人が、新型コロナウイルスの特性を理解し、感染を予防する行動を取ってください。それでも感染を100%防ぐ手だては、残念ながらありません。

そこで集団防衛です。「体調が悪いけど、我慢して練習に出よう、黙って合宿に参加しよう、すぐ治るだろう」といった行動・考えが、その方が所属する集団に感染を広げてしまう可能性があります。発熱・咳・倦怠感などの症状を認めたら休む勇気を持つこと。そのことをチームに報告する勇気を持つことを、是非お願いいたします。また保護者や観戦者の皆さまにも、観戦にあたって、発熱・咳・倦怠感などの症状を認めた場合には試合会場に行かない勇気を持ってください。こうした個人防衛と集団防衛を通じて、社会防衛に貢献していきましょう。

(2) 感染を予防する

新型コロナウイルスの感染は以下の2つの経路で生じることが確認されています。(1) 飛沫感染（咳・くしゃみ、おしゃべりによる感染）通常の風邪やインフルエンザのように、咳やくしゃみによりウイルスが排出され、それを吸入することにより感染が生じます。特に濃厚接触状態（手が届く範囲）における“おしゃべり”でも感染が広がる可能性があることが重要です。(2) 接触感染（手で触れることによる感染）咳やくしゃみ、おしゃべりで環境に排出されたウイルスが、手指などを介して粘膜（口、鼻、眼など）から侵入することにより感染が成立します。咳やくしゃみ、おしゃべりで排出されたウイルスは、条件次第では、環境中で数日にわたって生き続けます。一般的な予防方法は(1)「3つの密（密閉、密集、密接）」を避ける、(2)手洗いと咳エチケット、(3)口・鼻・目に不用意に触れない、(4)規則正しい生活とバランスの取れた食事、(5)「新しい生活様式」の確立です。「新しい生活様式」とは、長期間にわたって感染拡大を防ぐために、飛沫感染や接触感染、さらには近距離での会話への対策を、これまで以上に日常生活に定着させ、持続させていくことです。感染を予防していくには選手本人だけでなく、選手と頻繁に接する方々も同様の対応が必要です。皆さまのご協力をお願いします。

I. 毎日の検温、体調報告、行動記録

- (1) 指導者および選手は、毎日の健康チェック(倦怠感、咳、咽頭痛、食欲低下の有無、睡眠時間など)を、必ず実施してください。コロナウイルス感染の徴候がないか、毎日チェックしてください。
- (2) 体温測定：起床直後・就寝前等、できるだけ決まった時間での体温記録を、リーグ戦開催日や大会初日の2週間前から記録してください。
- (3) 毎日の行動記録：食事や出向いた場所・同行者などの記録感染者、濃厚接触者がでたときに、どの範囲で自主隔離するか素早く、正確に判断するために、毎日の行動記録が必要です。買い物、会食、戸外でのトレーニング等、感染リスクのある行動を誰と実施したか、といった観点で、可能な限りメモを残してください。

II 重要事象報告

- (1) リーグ戦や大会を実施している中で、新型コロナウイルス感染症に関することが発生したら、必ず(一社)鹿児島県サッカー協会に報告する。同様にリーグ戦や大会終了後 14 日以内に新型コロナウイルス感染症に関することが発生した場合も報告する。
- (2) 次の場合、必ず報告
 - 自主隔離（37.5 度以上発熱 2 日連続など）
 - PCR 検査を予定している
 - PCR 検査の結果が判明した
 - 濃厚接触者指定を受けた、または疑わしい
- (3) ご報告いただく対象者
 - 選手、顧問、および家族・同居人、チームバスの運転手、大会やリーグ戦をご観戦頂いた方。

III バスによる長距離移動

- (1) 事前の車内消毒・運転手の体調管理・マスク、手袋着用を依頼する。
- (2) バス内ではマスクを着用する。窓を開けて、換気する。1 時間につき 3 回の換気が推奨されます。サービスエリア等での休憩時もマスクを着用し、感染予防の行動を心がける。

IV チームの宿泊

- 宿泊施設の従業員や利用客との接触を極力減らす。
 - (1) チームが使用する部屋は事前に消毒、換気を依頼する。連泊となる場合は客室の清掃は依頼せず、最終日に各自で整理整頓を行う。
- 手指消毒液の設置
 - (1) 食事会場・廊下・部屋出入口・その他
- チームの行動規範
 - (1) 自室以外ではマスクを着用する。
 - (2) エレベーターのスイッチや階段の手すり、その他の施設に、できる限り素手で触れないようにする。
 - (3) 宿舎側から依頼される感染症対策も確実に守る。
- 部屋割り
 - (1) 大部屋での宿泊となるが、一部屋に入る人数を通常の 2 分の 1 以下に減らしての対応等をしてもらう。部屋間の往来を基本禁止とする。
 - (2) 部屋の換気を良くする。湿度 50～60%が推奨されます。
- 食事
 - (1) 選手の席はできる限り距離をあけて食事を行う。向かい合わせの配席も社会的距離を必ず確保してもらう。
 - (2) 食事は一人ずつ取り分けた状態で用意してもらう。食事中、宿泊施設の方は部屋にいないようにし、片付けはチームが退出したあとにお願いする。

V 競技場

- 来場者全員に求められること

- (1) 無理な来場は、勇気をもって、見合わせる。
 - (ア) 体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）
 - (イ) 同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合
 - (ウ) 過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合
- (2) 握手、抱擁などは行わない。
- (3) 社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する。
- (4) マスクを着用する。「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント（厚生労働省 2020 年 5 月 29 日） 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には、マスクをはずしてもよい。
- (5) 手洗い、手指消毒をこまめに行う。
- (6) 大声を出しての応援はできる限り控え、拍手での応援を行う。
- (7) 来場の際に検温・消毒をお願いすることがあります。37.5℃以上の発熱がある方の入場はご遠慮頂きます。

- チームおよび保護者に求められること

- (1) 体調がよくない場合（例：発熱、咳、喉の痛み、だるさ、味覚嗅覚の異常などの症状がある場合）、同居家族や身近な知人に感染が疑われる方がいる場合、過去 14 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国、地域等への渡航又は当該在住者との濃厚接触がある場合は、勇気を持って、無理な来場は見合わせる。
- (2) 握手、抱擁などは行わない。
- (3) 社会的距離（できるだけ 2m、最低 1m）を確保する。
- (4) マスクを着用する。来場者全員に求められること(4)の「新しい生活様式」を参照のこと。
- (5) 手洗い、手指消毒をこまめに行う。
- (6) グラウンドでの唾・痰吐き、うがい等は飛沫が飛び感染の原因になるため避ける。

- チームベンチ

- (1) プレー以外の不要な接触を避け、またピッチ上で会話する際も距離について配慮する。
- (2) ベンチ内での社会的距離に配慮し、こまめな消毒を行う。
- (3) 不要な会話・接触は控える。
- (4) 「新しい生活様式」における熱中症予防行動のポイント（厚生労働省 2020 年 5 月 29 日） 高温や多湿といった環境下でのマスク着用は、熱中症のリスクが高くなるおそれがあるので、屋外で人と十分な距離（少なくとも 2 m 以上）が確保できる場合には、マスクをはずしてもよい。
- (5) 飲水ボトルの共用をできるだけ避ける。個人用ボトルを準備するなど接触感染に十分注意する。
- (6) クーラーボックスを使用する際は、使用者を限定し、各チームで準備した消毒液でこまめな消毒、手指消毒を心がける。
- (7) 試合後は速やかに更衣や片付けを済ませ、できるだけ早く帰宅し、手洗いやうがい、消毒等を行い、感染防止に努める。